

2-9				
主題	実習事後学習及び事例検討会の活用により 実践力の向上及び就職に向けての情報共有			
副題	他の学生の実習時の在り方を通して自己に合った就職先の選択が可能			
キーワード 1	事後実習	キーワード 2	情報の共有化	研究(実践)期間 12ヵ月

法人名・事業所名	学校法人 サンシャイン学園 東京福祉保育専門学校 2年
発表者(職種)	太田歩花、手塚紀歩、篠航暉、佐久間大器、河本弓
共同研究(実践)者	なし

電 話	03-3981-1686	F A X	03-3987-0360
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	東京福祉保育専門学校は豊島区東池袋にある介護養成校です。1988年に4月に都内で最初に介護福祉士養成校として厚生労働省より認可されました。当校では、双方対話型授業が特色で実践力のある学生を養成しています。現在は、介護福祉士を目指す留学生も多数在籍しています。
-------	---

<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>現在、養成校を2年間で卒業するまでに1850時間のカリキュラムが必修である。そのうち450時間以上が施設実習が含まれている。450時間の実習を長期休講時に1年時に第1、2段階を実施し、第三段階を2年時に実施している。</p> <p>当校では多くの施設を知るため、学生が3施設で実習が行えるように配属されている。</p> <p>三施設の実習では就職先を選択するには少なく、自分に合った就職先を見出すことが難しい状況である。</p> <p>卒業後には施設で就職する目的意識を高められる事後実習を行い介護現場にて継続して勤められる学生の養成が課題となっている。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>当校の実習配属は厚労省の指示に従ってより多くの施設で実習を行っている。実習事前指導では、実習先の情報をては学生個人で調べ準備をするため情報の共有化をすることはできません。実習後の学習の中で情報を共有することの重要性を理解する。</p> <p>事後学習の成果を事例研究発表会を実施して、1年生、2年生が情報を共有できるように行い各科目担当の先生方にも参加していただきアドバイスをいただき実践力の向上が図れる。</p> <p>他の学生の実習での様子を理解して、自己の施設での実習に対して役立てられるような情報交換をはかり今後の就職に対しての情報交換の場として活用をはかることができる。</p>
--

《3. 具体的な取り組みの内容》

実習事後学習において実習先の特徴を踏まえてディカッションを通して学生間で情報を共有するとともに各施設での特徴について意見を交わし、自己の課題の発見し解決策について話し合う。学生間でまとめたことを各科目担当の教員を招いて各実習後に事例検討会を実施することで実習での問題解決が図ることが可能になる。

実習中は慣れないことが多く施設の概要や理念を理解することが難しい状況であるが実習終了後では客観的に見るのが容易になるため、他の学生の実習での報告において情報の共有化を図ることが容易に出来た。

情報の共有化を図ることで自分たちの進路の参考になり就職に役立てられるようになる。

《4. 取り組みの結果》

実習では一人最大でも3施設しか体験ができないが、他の学生と情報共有することで多くの施設の概要や理念を知ることができた。また、福祉用語やIOT,ICT等学校で学んだことを生かしたいがどの施設では実施できているかを知ることができた。

実習がすべて終了してからの就職活動では時間も限られているため、自己に合った施設を見出して施設を見学して永く就労できる施設を選択できるようになる。

また、実習を通して本人、家族の意向に寄り添い、社会資源を有効活用したことで、本人、家族、支援者、地域が安心して支援できる体制ができ、認知症があっても地域の中で本人らしく穏やかな生活を続けることが可能となることも理解することができるようになる。

これらのデータを数値化することで、今後にいかせられると考える。

《5. 考察、まとめ》

事例研究を通して、最新の介護のIOTやICT、介護ロボットに興味をもち就職先に選ぶ学生もいる。介護に対してITや興味のあることを実践している施設の情報の共有が行えた。

介護に対するネガティブなことより、近未来的な思考力を養うことで、介護の世界しかできないことを見出すことで、介護の世界に安心して入っていけるようになった。

《6. 提案と発信》

私たち学生は初めての施設で実習をおこなうため不安を抱えて実習に臨んでいる。実習中の職員さんの励ましや利用者支援の方法を丁寧に教えていただき、各学生も少しずつではあるが成長を感じられてきている。実習先で学生とうまくマッチングでき就職へと結びつなげられた学生も多くみられている。

私たち学生もこの職員と一緒に利用者を支えていきたいという気持ちが強くなる日々を迎え。学生は不安を抱えて実習に臨んでいます。学生を孤立させないように声掛けのほどお願いします。実習では大変お世話になりました。来年の4月からは職員として施設に入ります。

よろしく願いいたします。